

公益財団法人 日本骨髄バンク 第95回 業務執行会議 議事録

開催方法：WEB 会議形式で開催

(本会議を WEB 開催することに関して全理事の同意を得た)

日 時：2024 年（令和 6 年）1 月 12 日（金）17:10～18:00

出 席：小寺 良尚（理事長）、岡本 真一郎（副理事長）

加藤 俊一（メディカルディレクター）、石丸 文彦（理事）、鎌田 麗子（理事）

鈴木 利治（理事）、瀬戸 愛花（理事）、高橋 聡（理事）、橋本 明子（理事）

日野 雅之（理事）、福田 隆浩（理事）、三田村 真（理事）、沓沢 一晃（監事）

藤井 美千子（監事）

欠 席：佐藤 敏信（副理事長）、浅野 史郎（業務執行理事）

陪 席：猪俣 研次（厚生労働省健康局難病対策課移植医療対策推進室室長補佐）

東 史啓（日本赤十字社血液事業本部技術部造血幹細胞事業管理課課長）

事 務 局：小川 みどり（事務局長兼医療情報部長）、田中 正太郎（総務部長）

関 由夏（移植調整部長）、戸田 泉（広報渉外部長兼 TL）、荒井 茂（総務部 TL）

水口詞代（広報渉外部）、飯出 勝巳（総務部）、上原 淳（総務部）

(順不同、敬称略)

1) 開会

開会にあたり小寺理事長が挨拶した。

2) 業務執行会議の成立の可否

業務執行会議運営規則第 6 条により本業務執行会議が成立した。

3) 議長選出

業務執行会議運営規則第 5 条により業務執行会議の議長は理事長があたるとされ、小寺理事長が議長に選出された。

4) 議事録署名人の選出

議事録を作成するための議事録署名人は、業務執行会議運営規則第 8 条により議長及び出席した構成員が記名押印する。小寺理事長、岡本副理事長がこれに当たるとされた。

5) 議事録確認

前回（2023 年 12 月 8 日）の業務執行会議議事録を全会一致で了承した。

[議 事]

6) 報告事項（敬称略）

(1) オレンジ 10000 チャレンジ

広報渉外部水口が資料に基づき説明した。

昨年11月から12月にかけて実施したオレンジ10000チャレンジについて報告する。
「そのフォローがいのちにつながる。社会を変える。」として一人でも多くの人に骨髄バンクの正しい情報を伝えるため、情報を伝えてくれる仲間を増やすということで公式Xフォロワー1万人を目指すというチャレンジであった。期日が12月25日であったが、皆様の協力のもと12月23日正午に1万人を達成し、最終1万人を100程度超える数字で着地した。フォロワーの推移である。達成シナリオからビハインドすることが多かったが、ラジオやLINEでの呼びかけを通じて多くの方にフォローいただいた。また各界の著名人や企業団体個人の方からも応援メッセージを寄せていただいた。期間中にいただいた様々な方の支援の1部である。プロラグビー選手の木村貴大選手やVリーグ機構、漫画家の水谷さるころさん、タリーズコーヒージャパン、ラジオで一緒させていただいた元NHKアナウンサーで現在フリーアナウンサーの内藤裕子さん、それぞれメッセージや作品、動画を寄せていただいた。タリーズコーヒーでは店内での動画公開などもしてくださっており、引き続きタリーズコーヒーとやり取りをしながら認知拡大につなげて行きたい。こちらはMADKIDというダンスボーカルユニットのSHINさんの呼びかけである。自身が血縁での提供の当事者で現在も骨髄バンクの活動を応援して下さっている。その他に医療機関や医療関係サービスのエクスメディオ、品川女子学院作画部の皆様から支援いただいた。年明け以降もバンクのフォローとリポストを強化する動きは続いている。発信頻度を抑えつつも高品質の情報を発信して行く。最近では大竹先生もリポストしてくださっている。引き続き情報発信に注力して行くので皆様協力よろしく願います。

(主な意見)

<小寺> これはずっと続けるということか。

<水口> はい。

<小寺> 綺麗で賑やかな画面で面白い。

<水口> もっとドナー登録がポジティブなものとして受けとめられたらと思っている。

<橋本> 11月25日に倉敷中央病院100周年と合わせ病院との共催で造血細胞移植についてフォーラムを開いた。その時に水口さんに来ていただいてプロジェクトオレンジのことを話していただいた。報告の仕方も良かったと思うが、非常にインパクトがあって、担当者がつばさのXに公開してとても反応が良い。いつもは地味であるが、たちまち反応の数が上がって行った。プロジェクトオレンジの力強さ、元気さ、色々な人が参加しやすい雰囲気がとても良いと思っている。

(2) 震災対応

関移植調整部長が資料に基づき説明した。

能登半島地震に関する対応状況について報告する。1月1日の地震発生直後は、北陸3県と新潟に居住のコーディネーター、その後に山形、京都、兵庫と日本海沿岸に居住のコーディネーターについて安否確認を開始した。年始休み明け1月4日に北陸地区で予定されているコーディネートの該当ドナー、および施設の確認も開始した。1月4日のコーディネートについてはすべて予定通り実施している。1月4日に「令和6年能登半島地震に関する

るコーディネートの対処方針について」の第1報を出した。1月末日までの全国の採取予定ドナーの安否確認をする。石川県内のコーディネートについて、新規のドナーコーディネート開始は一旦見合わせる。確認検査についてはドナーが石川県河北郡よりも北に住んでいる場合、当面実施は延期する。最終同意面談以降については慎重に確認しながらコーディネートを進めるとして通知を出した。確認検査延期の対象ドナーは1名のみ、1月に採取が予定されていた全ドナーについて無事が確認できてコーディネートは予定通りとなっている。被災地を含む中部地区のコーディネートについては2月末までの採取ドナーの安否確認が済んでいて予定通りとなっている。

(主な意見)

<小寺> 移植施設、採取施設の情報はバンクに届いているのか。

<関> 石川県について中部地区事務局で確認した。バンクのコーディネートについてはすべて予定通り対応してくれている。ただ被災地ということもあって、被災患者の受け入れもしているようなので、通常の診療に影響が出ていると聞いている。

<小寺> そのようなことが大きいと思う。これからも影響の出る可能性があるかもしれない。バンクとしても注意していて欲しい。

(3) スワブ導入PJ進捗

荒井総務部TLが資料に基づき説明した。

令和8年度の本格導入に向けて、トライアル1、2、3と計画している。トライアル2については当初来年度からを予定していたが、厚労省の尽力により令和5年度の補正予算として本年度から前倒しで実施できることになった。トライアル2は200検体を目標にして若年層をターゲットにイベント会場や学域等を対象にして一連の流れについて検証する。トライアル2に参加したドナー希望者はドナープールに正式に登録する。現在、受付システムや説明動画、後藤班の班会議に参加の先生方には既にご覧いただいているところであるが、そのようなハード部分については整いつつある状況である。トライアル2の最初のイベントは2月4日に宮崎県で行われる読売巨人軍キャンプで1回目を予定している。毎年単独で登録会を実施しているが、こちらをスワブの登録会として実施する。これ以外にも語りべ等で年度内に複数箇所実施する予定で調整している。来年度の4月以降に新学期が始まったら学校などの学域を中心として実施予定である。合わせて日赤の協力もいただきながら、献血会と並行して実施する調整をしている。

(主な意見)

<小寺> 宮崎キャンプで200人の検体を取って、すべて日赤のデータセンターに入るのか。

<荒井> 宮崎キャンプだけで200人集まる予定ではないが、今回のトライアル2に参加していただいたドナーには、正式なドナーとして日赤のシステムに反映される。

<小寺> 採血は行わないということか。

<荒井> はい、採血は行わずスワブで行う。

(4) ドナー登録状況報告

戸田広報渉外部長兼TLが資料に基づき説明した。

2019年から2023年の5年間のドナー登録者と累計である。登録者の推移は右側に棒グラフで示している。2023年は前年比約7%の増加である。中央に表示しているグラフは縦に表示している棒グラフは10代から30代までの新規ドナー登録者を月ごとに表している。オレンジ部分が40代から50代の新規ドナー登録者である。折れ線グラフは10代から30代の若年ドナーの積み上げのグラフである。2023年は30代まで登録者が約2万5300名で、全新規登録者3万6357名なので約7割は若年ドナーである。コロナの制限が解除されて登録会が増えたこともあるが、積極的に学域での登録会を増やしたことで昨年から約2000名増加している。若年者の登録は年間3万人以上が必要だと言われているので、今年も学域や語りべ事業を増やすなどして、若年層の取り込みに注力して参りたい。

(主な意見)

- <加藤> グロスなところの解析が始まって嬉しい。4月、10月、11月に新規登録者数が多い。4月はおそらく入学した人を対象にしている、10月、11月は学園祭が開催されているのが関係しているのだろうか。
- <戸田> 4月は新入学の時期であるので注力している。10月は骨髄バンク推進月間である。説明員、ボランティアの方々も積極的に学域の登録会を増やしていただいたことがある。11月もその流れで登録会の回数が増えた。
- <加藤> 前回お願いしたように年度末に向けてさらに細かい解析を期待している。
- <戸田> 承知した。
- <小寺> 若年層ドナーが着実に増えているのは、若者をというここ何年かの広報が成果を出していると思う。広報渉外部の広報の仕方は基本的には正しい訳であって続けていただきたい。
- <加藤> 1つ追加である。10月、11月および12月はACの印象的なポスターを電車の中など方々で見た。日赤の血液センターに来られる方に、動機を尋ねるとポスターのインパクトが強いようである。危機感を非常に強く出すということが皆様の心に訴えるということを感じた。
- <小寺> 骨のポスターか。
- <加藤> 我々の世代ではあのようなポスターの発想がなかった。非常に若い世代に訴えるなどと思った。若い世代だけでなく40代から50代の方もポスターを見て来られる方がいる。それはそれでよいが、若い人たちにこのような形でもっと積極的に策を重ねて行くのが大切だと思う。

(5) 寄付金報告

戸田広報渉外部長兼TLが資料に基づき説明した。

11月は約900万円であったが、12月は約4300万円であった。バンクニュースを発行しているため振込用紙による寄付がかなりあり件数は約2000件となった。それから1件当たり

の寄付金額が大きかった。個人の方から非常に大きな金額の寄付をいただいた。累計では1億5000万円に近い金額をいただいている。

(主な意見)

<小寺> いつもながら本当に寄付してくださる方には頭が下がる思いで有難い。せっかくの浄財であるので無駄のないように、大事なところに使わせていただくように事務局に願います。

(6) 採取件数・患者登録数報告

田中総務部長が資料に基づき説明した。

2023年12月の件数は国内BM55件、PB24件、国際0件で合計79件、令和5年度累計は昨年度を50件近く上回る件数で推移している。また今回から国内の患者新規登録数の推移を右側のグラフで示している。令和5年度は12月末までで1385名となっている。2年前と比較すると同じ12月末まででマイナス202名と大きく減少している。昨年度と比較するとマイナス18名で微減である。

(主な意見)

<小寺> 採取件数は少し増えているが、患者登録数は微減である。しばらく傾向を見て行きたい。

以上